



News Release

2022年11月17日

日本製鉄株式会社

鉄鋼スラグを活用した藻場再生「海の森プロジェクト」、新たに6カ所で試験開始 CO₂の吸収・固定が期待されるブルーカーボン効果も検証

日本製鉄株式会社（以下、日本製鉄）は、豊かな海を取り戻すため、森から海へと供給される鉄分を人工的に生成する鉄鋼スラグ製品「ビバリー®ユニット」（鉄鋼スラグと廃木材チップを発酵させた腐植土を原料とした鉄分施肥材）を開発し、2004年から全国38カ所の沿岸へ提供を行ってきました。

この取り組みにより、これまでに多くの「ビバリー®ユニット」適用海域で藻場が再生・回復するとともに、漁獲高向上の効果も報告されています。このたび、日本製鉄では、さらなる藻場の再生・回復に加え、これによる生物多様性保全と地球温暖化防止への貢献に向け、6つの漁業協同組合と協業して新たな「ビバリー®ユニット」の設置試験を開始いたします。

かつて日本の沿岸海域では、コンブなどの海藻が生い茂る藻場が広がっていましたが、過去数十年にわたり磯焼けという海の砂漠化が進み、藻場の大幅な減少が問題となっています。この全国で起こっている磯焼けは、鉄分をはじめとする栄養塩の不足も原因の一つとされています。

また近年、気候変動や地球温暖化の原因とされる大気中のCO₂を海草や海藻が大きく吸収しているブルーカーボン（海洋生態系によるCO₂の吸収・固定）効果が分かってきており、藻場の回復・造成が新たな地球温暖化防止対策としても大きな潜在効果を持っていることが注目されています。

日本製鉄は、北海道増毛町において、増毛漁業協同組合と共同で、2004年から磯焼け対策、水産振興を目的にビバリー®ユニットによる海藻藻場の造成に取り組んできました。この度、この藻場造成事業において、国土交通省認可の技術研究組合であるジャパンプルーエコノミー技術研究組合が運営するJブルークレジット®から、直近5年間の2018～2022年に吸収・固定化されたCO₂量（ブルーカーボン）として、49.5トン-CO₂の認証を経て、クレジットの発行を受けました。

日本製鉄では、今回新たに設置する海域における藻場造成の効果を繁藻期となる2023年5月に確認する予定ですが、この他にも鉄分施肥材の設置前後での海水中の鉄分濃度の変化、海藻の成長の継続的な状況調査を行うことで基礎データを集積し、実海域でブルーカーボンの効果検証をしていきたいと考えています。

日本製鉄は、鉄分施肥材「ビバリー®ユニット」を磯焼けした海に設置・拡大することを通じ、藻場の再生による「海の森づくり」と「藻場によるCO₂吸収の促進」を一層推進していきます。

Make Our Earth Green  NIPPON STEEL
Green Transformation
initiative
NET ZERO

【新たに設置試験を開始した海域の概要】

	場所	協業先	施肥材	施肥量	施工完了時期
①	北海道 増毛郡 増毛町	増毛漁業協同組合	ビバリー®ユニット	22.5 トン	2022年11月9日
②	北海道 古宇郡 泊村	古宇郡漁業協同組合	ビバリー®ユニット	31 トン	2022年11月6日
③	宮城県 牡鹿郡 女川町	宮城県漁業協同組合 女川町支所	ビバリー®ユニット	26 トン	2022年10月12日
④	三重県 志摩市	三重外湾漁業協同組合 船越漁業権管理委員会	ビバリー®ユニット/ ビバリー®ロック※	10 トン	2022年10月7日
⑤	北海道 古平郡 古平町	東しゃこたん 漁業協同組合	ビバリー®ユニット	6 トン	2022年10月3日
⑥	北海道 茅部郡 鹿部町	鹿部漁業協同組合	ビバリー®ユニット	8 トン	2022年10月7日

※ビバリー®ロックとは、海藻が生える浅い岩礁帯を造るための人工石材

【ブルーカーボンの取組みを紹介する 360 度 VR 動画について】

日本製鉄がこれまで取り組んできた「海の森プロジェクト」について、藻場再生の様子などを 360 度 VR で体感できる動画を作成し、ホームページおよび当社公式 Youtube チャンネルにて公開しております。ぜひご覧ください。



▼日本製鉄公式 Youtube チャンネル：ブルーカーボン動画 UMIMORI プロジェクト

<https://youtu.be/Eg7n19kEnK4>

本件に関するお問い合わせ先：総務部広報センター TEL：03-6867-2977

Make Our Earth Green



NIPPON STEEL
Green Transformation
initiative
NET ZERO